

令和6年12月16日

意見発表

◆佐々木正行委員

本委員会に付託された諸議案等に関して、公明党県議団として意見、要望を申し上げます。

まず、令和6年度県営住宅事業会計における11月補正予算案についてです。

県は、上溝団地と追浜第一団地においてPFI事業により建て替えを進めており、事業者との契約書において、提案書の提出から工事完了までに長期間を要することから、設計完了時には物価連動に伴う増額を請求することができるとしていることから、このたびの補正予算案は建て替えをスムーズに進めていく上で、物価高騰に対して工事費を適切に見直すことは、住民にとってもPFI事業者にとっても大変重要であります。今後しっかりと対応を求めます。

また、県営上溝団地では、建物の老朽化に伴い、今年の3月29日の大雨や8月末に発生した台風10号により多くの雨漏りが発生し、修繕工事が完了していなかった2件についても終了したと聞いています。

今後も既存住宅の雨漏りが頻発する可能性もあることから、建て替えが完了するまでの間、残された住戸に対する雨漏り等の対応についても、住民目線に立ってしっかりと取り組んでいただくよう要望します。

次に、リニア中央新幹線の整備促進についてです。

先月、私の地元である相模原市内のリニア神奈川県駅において、さがみはらリニアフェスタが開催され、工事中の現場に大変多くの方が来場されたと聞いております。今後も県土整備局として、JR東海をはじめとした関係者と連携し、工事現場の安全を確保し、機運醸成を図りながら、リニア中央新幹線の整備促進に取り組んでいただくことを求めます。

また、車両基地の用地取得の進捗が図られており、その工事がいよいよ始まるとのことではありますが、こうした工事の円滑な進捗には地元住民のリニア事業への理解が欠かせないと考えます。

JR東海は11月に車両基地に関する地元住民などを対象とした工事説明会を行ったと聞いております。今後も工事内容等について理解が得られるよう、JR東海と連携して、明年から始まる工事が円滑に進むよう取り組んでいただきますよう要望いたします。

次に、プロミティふちのべビルの今後の方向性についてです。

公営企業資金等運用事業会計の事業として建設されたこのビルについては、地域振興と資金運用の両面を目指すものであり、今後の大規模修繕を考えたときには、収支の改善が難しいとの答弁があったところです。

しかしながら、企業庁が公共の施設として地域社会全体によい影響を与えるために経営してきたことを考えると、今回企業庁が示した方向性は残念であり、寂しさを覚えます。

サウディングで前向きな提案があった中では、いかに収支が厳しいとしても、様々な提案を試すなど、努力があってもよいのではないかと考えます。

相模原市から利活用の意向が示されていない中で、当初の地域振興施設としての役割を果たしたことと、収支面の改善が難しいとの説明がありましたが、万が一売却額が著しく低くなるようなことがあれば、期待した収入の確保さえままならなくなることが危惧されます。

売却するということであれば、不動産鑑定を行うとのことですが、企業庁として価格の見極めを慎重に行うとともに、適正な価格で売却が図られるよう取り組んでほしいと思います。あわせて、テナント企業や地元に応じた丁寧な説明を行い、十分な理解を得るよう努めることを要望します。

以上、意見、要望を申し上げ、付託された諸議案に賛成いたします。